

# 総合アレルギー専門医に求められる耳鼻咽喉科領域

*Otorhinolaryngological skills and knowledge for total allergist*

黒野 祐一

*Yuichi Kurono*

鹿児島大学大学院医歯学総合研究科 先進治療科学専攻感覚器病学 耳鼻咽喉科・頭頸部外科学 教授

## Summary

アレルギー性鼻炎は固有鼻腔の粘膜のアレルギー性炎症によってもたらされる疾患であり、これを診断し治療するには、鼻腔局所の病態を把握する必要がある。そのためには、鼻鏡検査、鼻汁好酸球検査、誘発テストは欠かすことのできない検査であり、総合アレルギー専門医はこれらの耳鼻咽喉科的な検査手技に習熟するとともに、その結果を正しく判定できなければならない。治療に際しては、くしゃみ・鼻漏型と鼻閉型に分類し、重症度に合わせて適切な治療薬を選択あるいは併用する。鼻閉が強い症例や保存的治療によって鼻閉が改善しない症例では、慢性副鼻腔炎や鼻茸、鼻中隔彎曲症の合併を疑い、耳鼻咽喉科専門医へ紹介する。

## Key words

アレルギー性鼻炎、鼻鏡検査、鼻汁好酸球検査、誘発テスト、くしゃみ・鼻漏型、鼻閉型

## はじめに

耳鼻咽喉科領域のアレルギー疾患として代表的な疾患はアレルギー性鼻炎であるが、本疾患は固有鼻腔のアレルギー性炎症のみならず、副鼻腔へも直接的あるいは間接的に影響を及ぼす。また、アレルギー性鼻炎の主症状であるくしゃみ、水様性鼻漏、鼻閉はアレルギー性鼻炎以外の疾患でも認められることから、アレルギー性鼻炎の診療に際しては、その鑑別も重要になる。そこで本稿では、総合アレルギー専門医としてアレルギー性鼻炎を診療するために習得すべき耳鼻咽喉科的な診察そして治療の仕方を、ガイドライン<sup>1)</sup>に準じて解説してみたい。

## I アレルギー性鼻炎の検査と診断

アレルギー性鼻炎の診断は問診に始まり、鼻鏡検査、副鼻腔X線検査、鼻汁好酸球検査、皮膚テスト、血清特異的免疫グロブリン (immunoglobulin : Ig)E抗体検査、誘発テストを行い、その結果を総合的に判断して決定する(表1)<sup>1)</sup>。これらの検査の目的は、アレルギー性か否かを識別し、